

2013 年を希望の年に 新たな歩み 一丸となって

新しい1年が始まるにあたり、間もなく就任から1年を迎える櫻田昭正三宅村村長にお願いをし、年頭のご挨拶を掲載させていただいた。避難指示解除から8年目を迎える2013年、櫻田村長を中心に三宅島が新たな一歩を踏み出す1年が始まった。



新年あけましておめでとうございます。皆様方には、すがすがしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。私の方は、昨年2月に村長に就任し初めての正月を迎えました。就任時、なんとかこの島を自立させ、復興させようという思いから、村政の

基本方針を「三宅島の空、海のように透明な村政」と「村民と村政が心を合わせた村づくり」の2つに定めて、その実現を目指して村政の運営に積極的に取り組んできました。職員が頑張ってくれたおかげで、一歩一歩、着実に前に進めることができました。特に、重要課題として取り組んだ「三宅島航空

三宅村村長 櫻田昭正

一歩一歩 着実に



発行所：三宅島ふるさと
再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

会長挨拶 笑顔に繋がる頑張りを

佐藤就之



新年のご挨拶を謹んで申し上げます。昨年も皆様に支えられ活動を継続できたことに心より感謝致します。本年もよろしくお願い致します。

帰りたくても帰れなかった在京者の方々も高齢化や体調不良、生活苦のなか家族や地域、行政サービスに支えられながら都会での自立の努力を重ねております。

また12年を超える年月は、帰島できなかった子供も巣立ち父母の別居家族も解消されつつあり笑顔が見られます。

皆で頑張っています。ぜひ島にお出てください。何よりの励ましです。

また、昨年は、今後10年間に渡って村政の指針となる「第5次三宅村総合計画」(平成24年度～平成33年度)を策定しました。

最後にになりましたが、今年一年間が皆様方にとって幸多い年になりましたよう祈念いたしました。私の新年の挨拶といたします。

三宅島ふるさとネット事務局

郵便番号：173-0005
住所：板橋区仲宿 25-6
電話：03(3963)5678
FAX：03(3963)5697
担当：加藤

路線の確保」、「高濃度地区規制解除に向けた火山ガス発令の夜間放送縮減と坪田高濃度地区の三池・沖ヶ平地区への名称変更」、「人工透析導入の検討」などに関しては、大きな手ごたえがありました。今後発生が想定されている南海トラフ大地震の津波対策としては、すでに島内各所に海抜表示板を設置しているとともに、三池地区の火災で延期になった大久保地区での避難訓練を実施します。

した。

総合計画に盛り込まれた施策や事業を着実に実施して、この島を活性化していきます。さらに今年、東京国体の年でもあり、三宅島でもトライアスロン競技が10月5日に開催されます。全国から一流選手が来島し、熱戦を繰り広げます。全国に三宅島をアピールする絶好の機会ですから、ぜひ村民の皆様方の応援とおもてなしをお願いいたします。

三宅島大学 加藤文俊先生

「自分たち事」の活動を

プロフィール

加藤文俊（かとうふみとし）京都生まれ。慶應義塾大学環境情報学部教授。専門はコミュニケーション論、メディア論、定性的調査法。2003年から「場のチカラプロジェクト」を主宰。ここ8年ほどは、学生たちとともに、柴又、金沢、首里、上山、小諸、田辺などで「キャンプ」と呼ばれるワークショップ型のフィールドワークをすすめている。

近著に『キャンプ論 - あたらしいフィールドワーク』がある。

というかわら版の発行である。私の活動の紹介や、島で感じたこと・考えたこと。

島の新たな学びの場として2011年に発足した「三宅島大学」。そのプロジェクトの一環として『あしたばん』の発行や女将さんポスターの作成を行っている加藤文俊先生は、その活動を「自分たち事の活動」と話す。

『あしたばん』を発行
縁あって「三宅島大学」プロジェクトに関わることになり、一昨年の6月以来、たびたび三宅島を訪れている。「三宅島大学」は、学校教育法上ではないが、島全体を、人

びとが集いのびやかに語らう〈学びの場〉として設計・演出しようというプロジェクトだ。架空の大学ではあるものの「教育」「調査研究」「地域連携」といったテーマが重要な活動領域となっている。私は、学生たちとともに、もっぱら「調査研究」という側面で「三宅島大学」と関わっているが、この一年半は、大きく二つの活動をすすめてきた。

一つは、『あしたばん』というかわら版の発行である。私の活動の紹介や、島で感じたこと・考えたこと。もう一つは、三宅島の宿の女将さんたちのポスターをつくるという活動である。一昨年の9月から5回にわたって16軒の宿を訪ねた。忙しいなかで時間をいただき、簡単な取材をし、その成果をポスターに表現するというものだ。宿の宣伝でも、島の観光PRでもない。

数年前、友人から「自分たち事」という言葉を聞いた。私たちに求められているのは、「他人事」と「自分事」のあいだにある、「自分たち事」として身の回りを見つめる姿勢だ。これからも、「自分たち事」として「三宅島大学」に関わっていきたいと考えている。



三宅大学の講義風景
(上)と慶應義塾大学
加藤文俊教授(右)



女将さんのポスターを

など、ふだん着感覚で綴るようにしている。不定期の刊行で、しかも全戸に配布しているわけではないが、これまでに、号外を加えると40号近くを発行した。できるかぎり島の人びとの目に触れるよう、島内の商店などに置かせていただき、島に行くたびに補充するように努めている。

すると、一人ひとりの女将さんが息づいて見える。これらは、いずれも地味な活動だが、続けてきたからこそ価値があるのだと思う。「三宅島大学」という試みにかぎらず、そもそも、何らかの成果が見えるようになるには、時間がかかるのだ。こうしたプロジェクトに関わると、「当事者意識」を持つことが重要だという議論になる。「他人事」は、人任せということだ。傍観者になってはいけない。いっぽう「自分事」は、「当事者意識」を持つているように思えるが、じつは身勝手に自己中心的ということなのかもしれない。



ふるさとネットの忘年会が昨年12月15日に実施された。忘年会には、新婚の増田（旧姓伊藤）奈穂子元事務局長や現在育児休暇中の大石陽子事務局長も顔を見せ、二人のお祝いも兼ねた賑やかな会になった。

忘年会は、ふるさとネットの協力者である舞踊家の鶴吉さんの「鶴吉スタジオ」を会場に行われた。参加したのは世話人や協力者など合計21人。

二人の事務局長を祝福

賑やかにネット忘年会

12月1日に結婚をした元事務局長の増田奈穂子さんと7月26日に男のお子さんを産出した大石陽子事務局長の姿もあり、二人のお祝いも兼ねた賑やかな会となった。

会は、佐藤会長の挨拶で始まり、鶴吉さんの音頭で乾杯が行われた。その後、卒業生が本紙を編集している向上高校山田貴久さんによる挨拶に続いて、増田元事務局長と大石事務局長が結婚や出産という人生の節目を迎えた心境についてなどを笑顔で話していた。

さらに女優で防災コーディネーターの京町さん

開会に際して、「今日は肩の力を抜いて、一杯飲みかわしながら歓談しましょう」と挨拶する佐藤会長。

が、阪神淡路大震災や三宅、東北支援の経験と被災地を繋ぐことの大切さを話すとともに、また、危機管理勉強会齋藤寛塾長などから激励があつた。そしてその後は、鶴吉さんによる「望郷の詩」の舞いや、ネット協力者・世話人によるダンスが披露されて、会場を盛り上げた。

酒井一豊副会長が挨拶を行ったのち、会長から3月9日に開催予定の「新春の集い」について、日程確定の報告と参加の呼びかけを行い、盛り上がった忘年会は「よいお年を」という声とともに幕を閉じた。



「望郷の詩」を舞う鶴吉さん

大石陽子さん

「これからもできることを」



出産し、わかんないこともたくさんある中で、今は一日一日の成長を楽しみにしながら子

育て奮闘中です。事務局長としては、たいへん貴重な経験をさせていただいています。これまで訪問活動をしてきた中で、在京者の方が厳しい状況に置かれているのはよくわかっていて、これからも、自分ができることをしていきたいです。

増田奈穂子さん

「嬉しい三宅とのかかわり」



事務局長として2年間の活動振り返ってみると、三宅島に行ったことや、在京島民のお宅

へ訪問活動をしたことで、たくさんのお話を学ばせていただきました。三宅島には何回も行くうちに慣れて、くさやを食べたり、自然にふれることが楽しみなようになりました。退職後も世話人として続けさせていたでいて、嬉しく思います。

「新春の集い」

日時：3月9日(土)

18:30～20:30

場所：ビストロおきみくら

※京急線青物横丁駅

下車徒歩3分

会費：5,000円

ふるってご参加ください。

お問い合わせはネット事務局まで。03(3963)5678

三宅 復興への検証

高濃度地区解除にまだ関門

12月2日に、13年ぶりに復活した三宅島産業祭が、商工会や各自治会婦人部などの協力も得て盛大に開催された。その一方で、三池・沖ヶ平地区の高濃度地区の指定解除はまだ最終実施が決まっておらず、今後は専門家との調整が鍵になる状況だ。

盛大に産業祭

復活！13年ぶりの第13回三宅島産業祭が、12月2日に三宅村役場駐車場・阿古体育館で盛大に開かれた。

主催は、三宅村観光産業課等が産業祭事務局を組織し商工会、J A島しょ三宅店、観光協会、各自治会婦人部などが協力した。開場は9時から。テープカットなどの開会式後15時まで行われた。商工会の島市も9日の



13年ぶりの産業祭りで灰干しの魚を販売

【ご寄付者名】

吉田信行様、M様、佐藤就之様
増田匠・奈穂子様
(10月16日～12月15日)

【ご寄付のお願い】

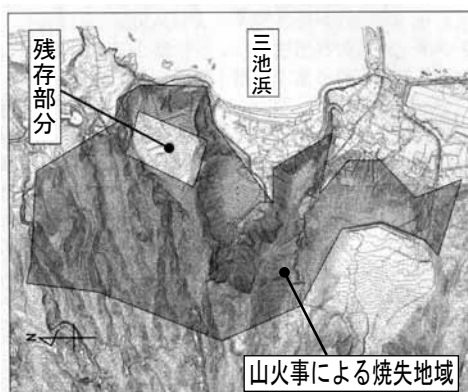
郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク

必要な専門家との調整

三池地区の山林火災は、11月16日から25日ま

で強風に煽られて旧役場先から三七沢上へと南西や北側を約156軒を延焼。三宅・東京消防隊、自衛隊、警視庁、役場職員などの必死の努力で住宅の被害は辛うじて免れたが高濃度地区のままで

は早期対処は困難だ。三池・沖ヶ平地区住民懇談会が11月11日、24人が参加し開かれた。営業禁止、未成年の住居制限、財産権侵害など早期解決を求めた。指定解除には専門家との調整が残されている。専門家と被災地について岩手・大船渡市角田副市長はある講演で専門家に慎んでもらい



たいことを挙げた。○十分な検証なく無理なことを勧めないでください。○専門家の自己満足に、住民や行政をつきあわせないでください。○バランス感・生活感のない人は、地元に入らないでください。○都会の価値観を持ち込まないでください。○全体を見ながら調整をする気がない人は、来ないでください。○権力を笠に着た発言は、しないでください。○複数の専門家が、バラバラにかきまぜないでください。

編集後記

昨年も編集活動を通して、多くの方にご指導いただき、ありがとうございました。

三宅島新報の編集をする、日頃忘れがちな「災害」を身近に感じることができ、「風化させてはいけない」という思いが新たになります。今年もよろしくお願いたします。

(DTPA一同)